

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月6日

協議会名:延岡市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)あさひ観光バス ○北方線9系統	①美々地線	○ 協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりに乗合タクシーの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、2.6人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	○ 市の福祉部門が実施する、公共交通を活用した介護予防事業(高齢者が路線バス、コミュニティバス等を利用して通うことができる場所で介護予防に関するプログラムを実施することで、運転免許証を返納した方も参加することができる。また、路線バス、コミュニティバス等の待ち時間を活用して買い物等の生活機能全般の維持向上を目指す。)により利用を促す。 ○ 免許返納者が期間限定でコミュニティバス・乗合タクシーを半額で利用できる制度を引き続き運用していく。
	②鹿川線			A 1回当たりの乗車率2.5人の目標に対して、7.3人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	③二股線			A 1回当たりの乗車率2.4人の目標に対して、5.9人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	④猿渡線			A 1回当たりの乗車率4.5人の目標に対して、8.6人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑤三ヶ村線			A 1回当たりの乗車率3.0人の目標に対して、6.6人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑥大保下線			A 1回当たりの乗車率4.9人の目標に対して、7.7人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑦下崎・笠下黒原線			B 1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、1.6人であった。 【分析】地域の移動のニーズに適していない可能性がある。	
	⑧片内・菅原線			A 1回当たりの乗車率3.0人の目標に対して、6.5人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑨上中尾線			A 1回当たりの乗車率3.8人の目標に対して、7.9人であった。 【分析】年間を通して目標値を上回る利用があった。	
〈共同運行〉 宮崎第一交通(株) 延岡グリーンタクシー(株) 宮交タクシー(株) (株)扇興タクシー ○北浦線3系統 ○旧延岡線4系統	⑩下塚線	○ 協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりに乗合タクシーの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。 ○ ⑬においては、利便性の向上を図るため、令和6年2月から経路変更を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、1.6人であった。 【分析】地域の移動のニーズに適していない可能性がある。	○ 市の福祉部門が実施する、公共交通を活用した介護予防事業(高齢者が路線バス、コミュニティバス等を利用して通うことができる場所で介護予防に関するプログラムを実施することで、運転免許証を返納した方も参加することができる。また、路線バス、コミュニティバス等の待ち時間を活用して買い物等の生活機能全般の維持向上を目指す。)により利用を促す。 ○ 免許返納者が期間限定でコミュニティバス・乗合タクシーを半額で利用できる制度を引き続き運用していく。 ○ 延岡市地域公共交通計画に基づき、市民の意見を取り入れながら最適な路線の構築を検討していく。特に、利用が目標乗車人数を下回る路線については、利用者へのアンケートや意見交換会等を実施し、より使い勝手の良い経路・時刻表に見直しを行っていく。
	⑪市尾内線			A 1回当たりの乗車率2.7人の目標に対して、3.3人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑫三川内線			A 1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、2.0人であった。 【分析】年間通して目標値どおりの利用があった。	
	⑬上三輪・貝の畑～祇園線			A 1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、4.0人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑭安井・神戸～レーヨン線			A 1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、3.3人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑮須佐～大武線			A 1回当たりの乗車率2.2人の目標に対して、5.6人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑯小川、平田～祇園線			A 1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、3.8人であった。 【分析】年間を通して目標値を上回る利用があった。	

延岡市 ※自家用有償旅客運送 ○北川線4系統	⑰上赤線	○ 協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりコミュニティバスの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1回当たりの乗車率2.5人の目標に対して、4.5人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	○ 市の福祉部門が実施する、公共交通を活用した介護予防事業(高齢者が路線バス、コミュニティバス等を利用して通うことができる場所で介護予防に関するプログラムを実施することで、運転免許証を返納した方も参加することができる。また、路線バス、コミュニティバス等の待ち時間を活用して買い物等の生活機能全般の維持向上を目指す。)により利用を促す。 ○ 免許返納者が期間限定でコミュニティバス・乗合タクシーを半額で利用できる制度を引き続き運用していく。 ○ 延岡市地域公共交通計画に基づき、市民の意見を取り入れながら最適な路線の構築を検討していく。特に、利用が目標乗車人数を下回る路線については、利用者へのアンケートや意見交換会等を実施し、より使い勝手の良い経路・時刻表に見直しを行っていく。
	⑱下塚線				A	1回当たりの乗車率2.1人の目標に対して、3.7人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑲瀬口線				A	1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、3.4人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	
	⑳家田線				C	1回当たりの乗車率2.0人の目標に対して、0.8人であった。 【分析】沿線人口の減少もあり、近年、利用数も減少傾向にある。	
宮崎交通㈱ ○2系統	㉑㉒まちなか循環バス	○ 協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりまちなか循環バスの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。 ○ バス利用促進の一環として、8月に小学生運賃無料期間キャンペーンを実施した。 ○令和6年10月から11月までの期間で当市の特産品の1つである「魚」のイラストを募集し、応募のあったイラストをまちなか循環バス車内に掲示することで、乗客に対する水産物のPRを行うとともに、まちなか循環バスの利用促進に取り組んだ。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	1回当たりの乗車率8.1人の目標に対して、10.1人であった。 【分析】年間通して目標値を上回る利用があった。	○ 小学生の運賃無料期間キャンペーンを引き続き実施しつつ、その他の利用促進に資する取組を検討する。 ○ 自治会、高齢者クラブ等を対象としたバスでの「お出かけ企画」にてまちなか循環バスを活用する。 ○ 市の福祉部門が実施する、公共交通を活用した介護予防事業(高齢者が路線バス、コミュニティバス等を利用して通うことができる場所で介護予防に関するプログラムを実施することで、運転免許証を返納した方も参加することができる。また、路線バス、コミュニティバス等の待ち時間を活用して買い物等の生活機能全般の維持向上を目指す。)により利用を促す。 ○ 延岡市地域公共交通計画に基づき、市民の意見を取り入れながら最適な路線の構築を検討していく。 ○ 令和7年1月6日から実証運行を予定している「北部・南部まちなか循環バス」が接続することになるため、新たな利用者の獲得に努めていく。

